

第7回 樽ヶ橋エリア活性化検討委員会議事録（要旨）

日時：平成26年2月20日（木） 午後1時30分

会場：胎内市役所5階 501会議室

出席者

三宅会長・大平副会長・平川委員・羽田野委員・羽田委員・久保田委員・須貝委員

事務局

丹後商工観光課長・田部商工観光課参事・平山商工観光課主任

1 会長（三宅副市長）あいさつ

今月関東地方を襲った大雪、山梨の笛吹市に職員が応援に行っている。

今回は基本方針・基本構想を事務局より貰い

2 会長より司会進行

エリア内の核施設の活性化ポイントについて

（事務局 資料1読み上げ）

- ・ 1点目はエリアのとらえ方、観光振興のプランからみれば樽ヶ橋遊園、クアハウス、伝習館を指すと思いますが、これでいいのかと思う。また道の駅というのにも入っているがほかの道の駅と比べると飲食施設等、また奥に引っ込んでいるということもあり見劣りする。しかし、他の道の駅と横並びにして欠点ばかりいっていても仕方がない。ここにいる地域振興局の方が日本一小さい道の駅という事で売り出そうということをやっていたことがありました、それもひとつですが、国道からはいった広大な地域を樽ヶ橋公園ととらえることができないか、それそのものを道の駅として位置づけできないか、それに無理があるにしても、今狭い意味での樽ヶ橋エリアとその周辺の観光スポットを連携した計画が必要。貧弱な見方があるが一番道の駅らしい。他の道の駅は飲食施設とお土産やばかりに力が入っていて、肝心の案内所が職員のいない所もあり手薄。それから見れば樽ヶ橋はまだ期待されるものからすれば十分ではないが、観光協会の事務所ということもあり、案内所そのものも人的なものと言い機能といい自立している。周辺に樽ヶ橋遊園あり、クアハウスあり、伝習館ありでかなり道の駅として充実している。それを魅力としてとらえているか、アピールする気になっているか、そのへんの論議を深めて行く必要があると思う。
- ・ 樽ヶ橋エリアの中で活性化をどうとらえるのか、集客、収益ということとらえくのか。お金がかかっても、リターンがなくても収益は上がらなくても胎内市の今後の地域の為

になるものとか例えば文化になるとかとかそれはそれで収益があがらなくてもいいと思う、その辺がどこをポイントとするか。ここの表は皆同じ網かけになってしまっている。パラレルになって皆平等になっているので、その辺のアクセントのつけ方が必要。集客というかいかにかに人を呼べるかですが、県外にいったときに感じた事です、そこに行くまでの道のりをすごく良く整理しているというか、宮城とか福島とかよく行っていたのですが、夏場こまめに下草を良く刈って見通しを細かな手入れを良くしている。どこでしているのかはわかりませんが、胎内市でも、クリーン作戦ということでごみ拾いとかしてますが、施設の充実だけでなくそこにいくまでの道のりも目配らせて、胎内市はごみがおちていないとか綺麗だというのもひとつのアピールポイントになる。行政だけでなく市民参加的なものも必要かと思う。

- ・この委員会はランドデザインをどうしようかというのが検討するのが当初の話でした。この中に食堂も入っていますよね。藤棚あり、公園整備ありでこのランドデザインをどうしようかですね。市の方でこういうランドデザインありますが皆さん市民の方思われますか。ですね。事業主体は市ですね。おおもとは観光協会の各部会とT S Pという胎内市のステップデザインが提案して市が受けている。
- ・この検討ですね。ランドデザインの再検討ですね。見直しとか。
- ・平川さんの言うとおりで。事務局がそのことを意識しないで進めているのでぼけてしまっている。ランドデザインはハードのウエイトが高すぎるので、本来の魅力づくり大切にしていきたいと一貫して主張してきたわけですが、平川さんのように当初の問題意識に添ってリードして頂くひつようがある。飲食施設についていえばロイヤルホテルとの競合について考えなければならず今すぐというのは無理。観光協会が努力しているのに肉付けしていく形でよいのでは。2回目にクアハウスでも飲食関係を検討したが無理といていたそのことも受け止める必要がある。
- ・気になりますが、さっき平川さんが言ったランドデザインについて市はどう受け止めているか
- ・はい。こちらでは提案しています
- ・今日の議題もランドデザインの見直し。という事で、市が決めた事に対してだからやはりだれがきめたわけではなくして決めている。
- ・私は違う受けとめ方をしている。いくつかのアイデアの中の一提案とし、提案したのは民間で市がはっきり言わないものだからイエスと捉えている方とノーではないけど私はノーと頭の中で考えている。市はどのように考えているかはっきりした方がよい。
- ・はい。市はひとつの提案として考えている
- ・この活性化検討委員会は、平川さんの言われた趣旨とおりに設立。ランドデザインという事で市が提示させていただいた。内容については観光協会の企画部会というのがありまして我々商工観光課の職員も参画して、市内の観光協会の市内の事業主さん会員の方も参画、さらに胎内ステップあっぷプロジェクトという有志の市民の団体の方も参画

している。そこで企画、立案して、デザインをもとにして市がこのグランドデザインベースにしてもっと大きく民間の方に公表して様々な市民の意見も頂きたい。そして再見直しをして最終的な基本計画を作っていこうという趣旨でこの委員会が設立された。

- ・あくまでもベースということであるのか。
- ・これはいるとか、いらぬとか。さっきの道の駅でも必要最低限でよいとか、言うように道の駅を広く捉えて、道の駅というエリアを樽ヶ橋エリア、イコール道の駅ということではなくて、道の駅エリアの中のひとつの道の駅とあってもっと活性化させるために施設間とか色々な資源をリンクさせて蔵王山をとかを含めて範囲を含めたほうがいいのか、様々な意見をといて1～7までを平行で出したので焦点がぼけたとポイントポイントで何を目玉に樽ヶ橋にお客様を誘客するのか、と7号線から離れているのでそこまでの整備や、7号線沿いが良いという意見、市としてはあそこの樽ヶ橋の交流センターを道の駅として、観光振興ビジョンにも道の駅樽ヶ橋をメインとして道の駅を観光の情報発拠点として中条、黒川、樽ヶ橋、胎内平の中間地点とて、その周辺エリア全体をどう活性化していくかグランドデザインをたたき台にして皆様に検討して頂くというスタイルで過去6回協議して頂いた。
- ・資料3のグランドデザインと平川さんのいうグランドデザインは同じですか。
- ・同じです。次回このグランドデザインにこの7回の活性化委員会の内容を含めて次回に提出する。
- ・越後胎内観音と奉賛会とのなんらかのやりとり進行状況はどのようになっていますか。有楽荘には眺めは良いとは言えないがお風呂がある。空いている時のエリアでの観光客の休憩施設として考えてみては。
- ・奉賛会とはまだ協議に入っておりません。
- ・クアハウスは健康増進施設なので入浴設備は日帰り施設としては不向きなので、塩の湯温泉みたいに日帰り入浴できないかとの意見ですが、有楽荘の施設管理の者と話し合いをさせていただく。
- ・有楽荘は土日はエリア来場者に開放して入浴等を活用できないかと思った。
- ・観光交流センターのカレー等の販売品とすればそこに関わる費用、人件費等を算出して費用対効果を出していただければ話がしやすい。

3 樽ヶ橋エリア活性化の基本方針等について

(事務局 資料2 読み上げ)

- ・この基本方針・基本構想ではダメではないのか。表面的すぎるし、観光振興ビジョン、第2次リゾートマスタープラン、アクションプランとの関連性の明記が必要だし、根本的な樽ヶ橋の魅力を謳い上げることが必要だし、道の駅のとらえ方などの部分を掘り下げて出していかなければならないと思う。マスタープランに樽ヶ橋の事が明記されてな

かったからこのように委員会をしているわけなので、樽ヶ橋の過去からの経過と問題点をきちんと整理し、魅力を出していかなければならないと思う。藤や自然の魅力を忘れて建物が寄せ集めで建てられてきて、イベントをやるにしても駐車場がなかったり、その場しのぎで実施してきた結果が表れているので今でできること、出来ないことをきちんと整理して順序立てていかないといけないと思う。

- ・基本方針に「人とのふれあい」と書いてますが、観光ガイド・ボランティア等の育成、それを行うために勉強会や講習などを行いやその他やらなければいけないことがあるが、箱物は作れば終了だが人とかかわる部分は実際できるかどうか非常に難しいと思う。
- ・事務局から出してもらったが、この基本方針・基本構想で樽ヶ橋エリアをどうするのか明記されていないので、委員の皆さんから意見を出して貰ったわけなので、今回はこの部分も記入するようにしてください。

3 今後のスケジュールについて

(事務局 資料3 読み上げ)

- ・今年度はランドデザインの見直しが完結と言う事だったが、先ほどの説明で基本計画とはどういうものなのか、マスタープランとアクションプランの年次計画が変更していると聞いたが、どのように関連するのか、第8回で当面の役割は終了になると思っていたので、26年度の基本計画を含めた作業の中身を教えてください。
- ・今回の基本方針・基本構想では、明確ではないとご指摘をいただきました。これについて再度事務局で見直しをさせていただく。基本計画はマスタープランとの整合性をとった樽ヶ橋の活性化のためのマスタープランを策定していければと考えております。そのマスタープランに基づくハード・ソフト両面の運営、施設の収支計画・入込などの目標を織り交ぜながら、策定の計画を考えております。策定は基本的に1年と考えております。
- ・第2回でランドデザインの見直しが最終目標だと明記されているがこれでよろしいのかお聞かせください。
- ・第2回で明記されているようにランドデザインの見直し実施し、それをベースにして基本計画及びマスタープランを作成し、推進していくのが手順だと思います。26年から基本計画の策定を1年かけていきたいと思っております。
- ・この資金計画や収支計画は我々委員ではできないのでこの辺は事務局でやっていただきたい。
- ・基本計画までは委員会で審議していただきたいと思っております。収支計画や資金計画は、補助金、市の予算、運営経費については民間事業者さんや指定管理者の収支計画等も絡むので、この辺は委員会では決められないことなので事務局サイドで決めていきます。委員会からも費用対効果の関係も含めた収支計画なども提示や報告する形でいたす

ことになるかもしれませんのでよろしくお願いします。

- 胎内市の活性化の流れは魅力向上委員会を中心にして動いているリゾートマスタープランは完成でアクションも完成にありつつある中で、市の各関係部署の皆さんは年次計画の中で業務をしなければならない状態だ。樽ヶ橋エリアもその中に入っているのにこれだけ計画をずらして先導していく必要性がまだ見えない。
- 具体的な施策をいつ、どこで、だれが実施するか、掘り下げたものがリゾートマスタープランやアクションプランではきちんとあるが、樽ヶ橋エリアについては、奉賛会との協議がまだであったりして、そのようなところが明確でない部分がありますので、マスタープランやアクションプランと同じような形態で、樽ヶ橋エリアも基本計画をもとに年次計画を作成して進めていきたいと考えております。決してリゾートマスタープランなどと樽ヶ橋がバラバラな方向で向かうと言う事ではなくて、きちんとリンクしていきます。ランドデザインで終了でなく基本計画・実施計画を作っていく趣旨です。